

# 信 毎 歌 壇

## 小池 光 選

蠶螂の産卵するを初めて目にす真白な卵は真珠の如し (軽井沢町) 藤巻 文枝  
 水槽に浮かぶ落葉に乗っている 蟬 あはれ身動き出来ず (長野市) 小日向栄子  
 必揮会の終わりは笑顔住職の「又あいましよ」メリークリスマス (長野市) 松本 博人  
 おっぱいがふくらんできたとおどろきがいいしときよりおどろきはひとり (千曲市) 関 津和子  
 公園に一人遊びを楽しむ子見えざる友のあるのであらう (箕輪町) 向山 政俊  
 「あたしのためにありがどうございました」とお辞儀するさつちゃん(七)の振り袖姿 (東御市) 広沢里枝子  
 著作にて赤彦をいたく誉めるゆゑ前川佐美雄も好きになりたり (辰野町) 木内 隆  
 修学旅行の清水坂に購ひしうすき湯呑みのいまだ使はず (長野市) 原田 浩生  
 カーテンを透かして木の葉の落ちる影寝込んだのが秋でよかった (松本市) 堀内 悠子  
 遠き日の九人家族は弟と我の二人になりてしまひぬ (飯綱町) 坂井 寿男

第一首、作者は82歳の方。その年齢になつてはじめてカマキリの産卵を見て驚き、感動した。いくつになつても知らないことはたくさんあるのだ。第二首、水槽に浮かぶ落葉の上、コオロギが乗っているのを見た。観察が実に繊細である。これも一種の未知との遭遇だ。第三首、お坊さんがメリークリスマスというところがおもしろい。なかなかの人である。今回はおもしろい歌たくさん。

選評

## 小島 なお 選

またこんな世界に手帖買っている明日を信じているのは誰だ? (松本市) 美甘 歎  
 開きたる花が初めて出逢ふ空果たての国は戦場なるを (長野市) 近藤 光子  
 われの服頭上の空と同じ青コートのボタンを止めずに歩く (飯山市) 市村紀久子  
 くやしうて自分の尻尾に噛みついて鎮める術を我も見習う (東御市) 増田 栄子  
 道なりに曲がり曲がりて行く我ら鳥は直線鳥になりたい (安曇野市) 立沢由美子  
 冬眠の熊もさぞかしさみしかる野沢菜漬けて独り茶を飲む (長野市) せきたつお  
 生徒会、部活も退きて受験期の孫は時おり体調崩す (上田市) 小林さよ子  
 大谷が息子ならばと思へどもさりとして吾は吾子が一番 (千曲市) 中村 美樹  
 夜の九時お風呂上がりの耳掃除部屋の窓から星座眺めて (伊那市) 赤羽 正彦  
 犀川に鮎釣る人は瀬を渡り老い等は陸にマレット楽し (長野市) 西沢日出枝

第一首、新しい年の手帖を買うことは明日が無事に来ると信じている、というよりも信じたからかもしれない。第二首、花はいつ、どこで咲くかを選べない。戦場に生まれる子どもたちもまた同じなのだ。第三首、ボタンを外したままにすることで、空の青と地上の自分がひと続きになったような。第四首、自分の感情をついに人にぶつけそうになるときは犬を見習おう。尻尾はないけれど。

選評

## 米川 千嘉子 選

チユーしたらタメと言つたら頼つたを擦り付けてきた子らの思ひ出 (塩尻市) 藤森 円  
 診察を長く待ちをりちちははにスマホの画面のモグラ叩かせる (長野市) 原田りえ子  
 新婚の君にも重きはあつたはず明日も抱き上ぐ老々介護 (長野市) 風間 遥陽  
 信号が赤から青に変わる時大谷選手の笑顔が見えた (松本市) 中村 博穂  
 お年玉百円札の記憶なれ七十年は過ぎたろうか (小諸市) 尾沼美枝子  
 軽口を叩く癖ある夫なれば特にセクハラ無きよう念押す (須坂市) 高橋 都子  
 異国語を学ぶ理由を尋ねれば可愛い孫と話したいから (小諸市) 星野 直人  
 待ち待ちし駆伝に沸く伊那路なり「頑張れ」叫びメロスを想ふ (伊那市) 堀米 好美  
 子供らの植えし記念樹育ちゆく花ひらく春には廃校の土手 (佐久市) 森山すみ江  
 ふくらめる買ひ物袋はうれしけれ三割引きの野菜であれど (飯山市) 市村紀久子

第一首、くすぐったいような子供たちの思い出。若い父のうれしさが今も込み上げるよう。第二首、長い待ち時間にスマホのモグラ叩きゲームを、というのがユーモラス。第三首、軽々と新婦を抱きあげた日からたちまちに過ぎた歲月。切なさや厳しさを乗り切るコツはここでもユーモアだ。第四首、移籍先が決まったニュースが車中で流れたのだ。大谷選手のユニホームも赤から青へ!

選評

雨あがり大きな虹が現れてもうそれだけで今日はしあわせ (佐久市) 高橋衣里子  
 けたたまし声張り上げて椋鳥は残り僅かな柿を争う (麻績村) 小山みよ子

寝つかれずつらき夜中に聞こえる牛乳びんの音の静かに (上松町) 藤原 邦子  
 廃校の教室今は喫茶店「三月末まで冬休みです」 (千葉真船橋市) 清水 渡

炊飯器は役目を果たし静かなり内外拭きつ日月を思ふ (松川町) 小川 陽子  
 星と緑自然ゆたかなこの山里にひたすら生き来し (小川村) 稲葉 利郎